《薬局サーベイランスコメント》

「インフルエンザの流行は本格的な規模を保ったまま第 2 週、第 3 週と横ばいとなっており、第 4 週もその状態が続くと予想される」

2015 年 1 月 20 日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

薬局サーベイランスによると、2015 年第 3 週（1 月 12～18 日）の推定患者数は 127,1385（約 127 万人）となり、前週の推定値（約 134 万人）をやや下回りました。また、休日明けの 1 月 19 日（月曜日）の推定患者数は 312,772（約 31 万人）であり、こちらも前週の 1 月 13 日（連休明けの火曜日）の値（約 33 万人）をやや下回っています。

年齢群別でみると、15 歳以下の年齢層の割合が更に増加して半数近くを占めていて、学校、幼稚園、保育園等の小児の集団生活施設においてインフルエンザの流行が再び本格化しているものと予想されます（図 1）。

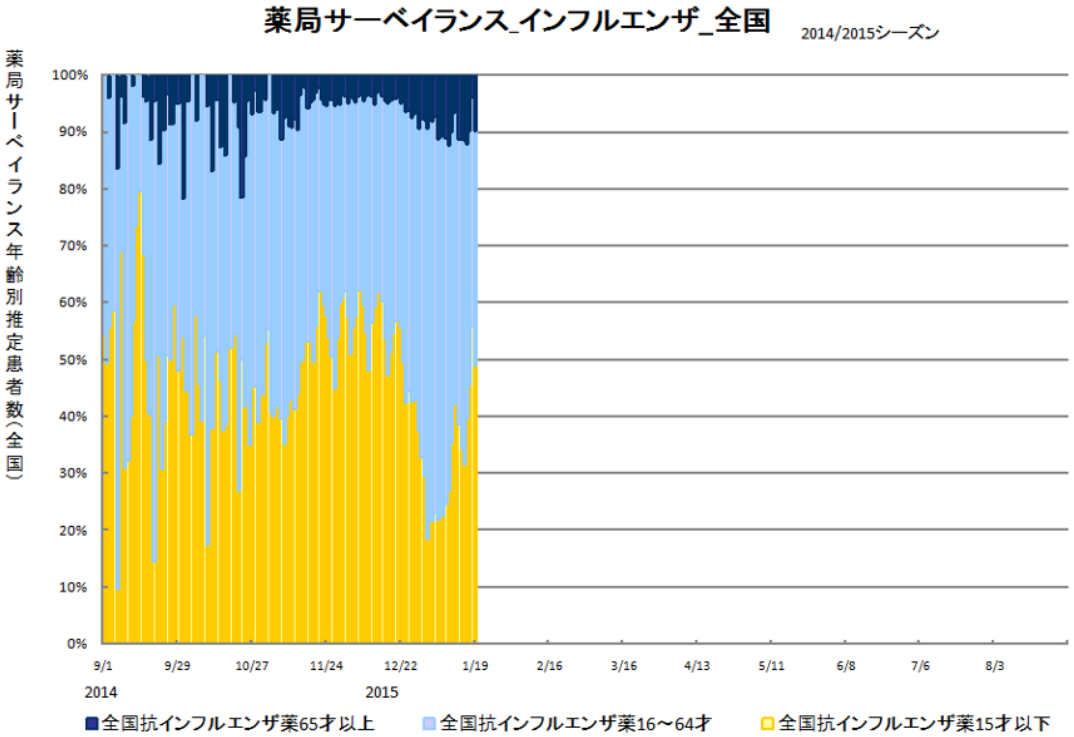

図 1. 薬局サーベイランスによる全国のインフルエンザ推計受診患者数の年齢群別割合の日別推移（2009 年 9 月 1 日～2015 年 1 月 19 日、http://www.syndromic-surveillance.net/kanjyasuikei/flu/2014_15/index.html）

大阪府の 2015 年第 3 週 1 週間の推定患者数は 73,064（約 7 万 3 千人）であり、休日明けの 1 月 19 日（月曜日）の推定患者数は 1 日で約 2 万 1 千人となり、どちらも前週の値（第 2 週推定患者数約 9 万 6 千人、連休明け 13 日の推定患者数約 2 万 3 千人）よりも減少がみられています（図 2）。ただし 15 歳以下の小児の患者発生数は急増が続いていて 1 月 19 日 1 日で 1 万人を超えており、大阪府下のインフルエンザの流行の中心は小児に移行しています。

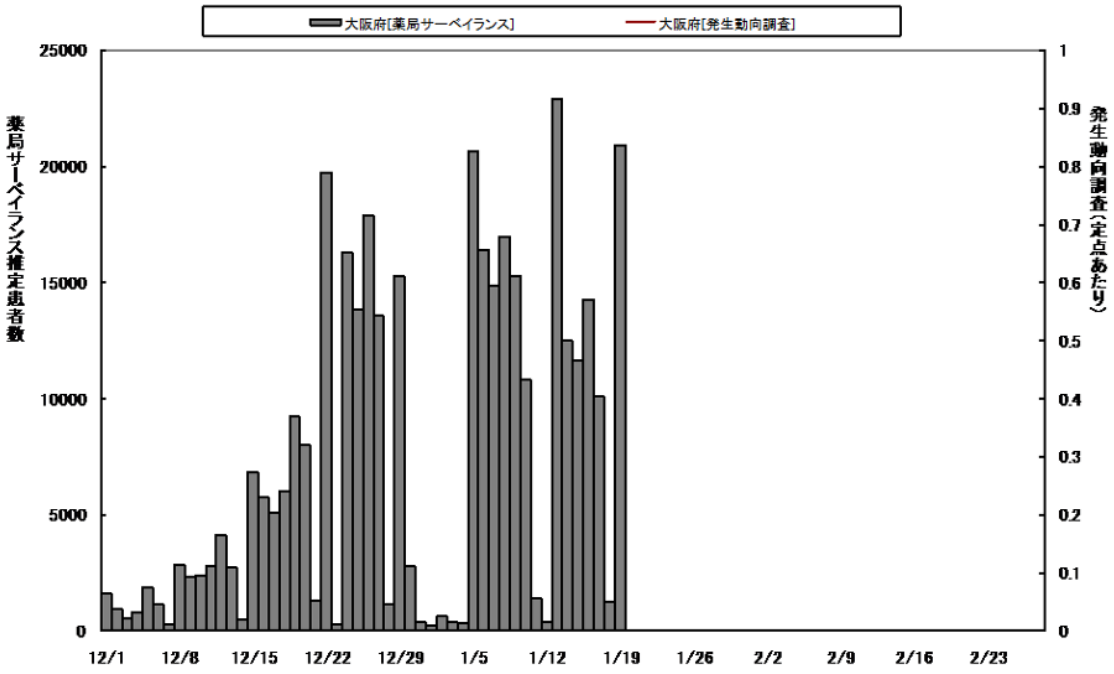

図 2. 薬局サーベイランスによる大阪府のインフルエンザ推計受診患者数の日別推移（2014 年 11 月 1 日～2015 年 1 月 19 日、http://www.syndromic-surveillance.net/kanjyasuikei/flu/2014_15/28_osaka.html）

以上より、今シーズン（2014/2015 年シーズン）のインフルエンザの流行は、2015 年第 2 週、第 3 週と横ばいかやや減少傾向となっており、特に大阪府では減少傾向となっていますが、15 歳以下の年齢層では反対にまだ急増が続いており、まだ流行の峠を超えたと判断すべきではありません。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf）によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルスは大半が A/H3（A 香港）亜型である状態が続いています。

インフルエンザの流行は、第 2 週、第 3 週と本格的な流行規模を保ったまま横ばいの状態が続いていて、第 4 週も同様であることが予想されます。しかし流行の中心は成人層から小児へと移行してきており、今後の流行規模についてはまだ予測できません。インフルエンザの流行の推移には今しばらくは注意が必要です。

なお、2015 年 9 月 1 日以降の今シーズンのインフルエンザの累積の推定患者数は約 528 万人となっています。